

**国際共同研究事業 欧州との社会科学分野における  
国際共同研究プログラム (ORA プログラム)  
事後評価結果**

研究代表者所属機関・部局・職・氏名 早稲田大学政治経済学術院 教授 船木 由喜彦

研究課題名：金融市場安定化のための実験・行動経済学的分析及び制度設計の研究

<b>評 価 結 果</b>	
	<b>S</b> 想定以上に意義があった
○	<b>A</b> 意義があった
	<b>B</b> ある程度意義があった
	<b>C</b> ほとんど意義がなかった
<b>所見</b>	
<p>本研究は、意思決定主体の行動データを仮想金融市場で収集し分析することで、金融安定化のための政策的提言を行うことを目的としている。研究課題は時宜にかなっており、中央銀行の売りオペと買いオペが人々の投機行動へどのように影響するかについて実験的検証を実施したことや、投資による利益の分配交渉の結果がコミュニケーション機能の有無により大きく影響を受けることを経済実験によって明らかにしたことなどは評価できる。</p> <p>本研究では、実験経済学・行動経済学の手法を用いて、データの収集と分析に関し、3年という期間に比して十分な質と量の研究成果が出された。また、多くの海外招聘、海外派遣、及び海外ワークショップの開催は、本研究の目的に則した十分な実績と認められ、海外研究者とのネットワークの構築という点で大きな進展が見られる。各実験においても博士課程の学生が多く参画し、海外からのポスドクを多く招聘した点も本邦の若手研究者養成の点で評価できる。</p> <p>しかしながら、政策提言等、インプリケーションの考察に関しては、現時点では未だ十分でないように思われる。実験結果の分析は継続中のことであり、今後そうした成果が生み出されることを期待する。今回の共同研究で構築した国際ネットワークを軸にして、この研究の更なる高度化が図られることを期待したい。</p>	